

自治体名	佐賀県
------	-----

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員 9名

がんの専門医、佐賀県医師会代表、関係NPO法人、県健康増進課がん対策推進担当
 県中学校校長会長、推進校高等学校長、推進校PTA会長、推進校教諭、県教育委員会

2. 検討時期、内容

第1回佐賀県がんの教育に関する協議会 平成27年7月10日(金)

- がんの教育総合支援事業についての趣旨、概要説明
- 本県におけるがんの教育の現状と課題
- がんの教育に関する計画の検討及び決定
- 推進校の計画・取組内容の説明

第2回佐賀県がんの教育に関する協議会 平成28年2月12日(金)

- 平成27年度がんの教育総合支援事業報告
 - ・がんの教育推進校での実践報告(佐賀県立嬉野高等学校)
- 佐賀県がんの教育に関する計画の検証
- がんの教育の推進について

② 教育委員会としての取組

佐賀県教育委員会では、がんに対する正しい理解とがん患者に対する正しい認識及び命の大切さについて考える態度を育成することを目的として、平成26年度から「佐賀県がんの教育に関する計画」を策定し、がんの教育を推進している。

平成27年度は、県内中学校に対し、平成26年度推進校である武雄市立川登中学校が作成した教材や学習指導案を活用してがんの教育を実施するよう研修会等で説明を行い、実践を促した。

また、佐賀県立嬉野高等学校を推進校に指定し、高等学校におけるがんの教育の教材・学習指導案等の作成及び授業の実践・授業公開を行い、県内高等学校におけるがんの教育の普及を図った。推進校の取組で作成したがんの教育に関する教材・学習指導案等は、県下の教職員が共有しているサイトに掲載し、各学校において活用するよう周知した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- NPO法人クラブサポート(がんになる前の予防と退院後の患者・家族のケアを中心に活動する支援団体)及び嬉野市健康づくり課と連携することにより、講師派遣が円滑にできた。
- 推進校において開催した講演会では、がんの教育に関する協議会委員でもある佐賀県医療センター好生館 理事長 中川原 章 氏を講師として依頼し、がんの専門医として講話をしていただいた。
- 推進校が教材・学習指導案を作成する際は、専門的立場から、学校医や県健康増進課がん対策推進担当者の助言を得るようにした。
- 推進校教職員対象の研修会において、県健康増進課がん対策推進担当者による講話を実施した。

(2) モデル校における取組

佐賀県立嬉野高等学校では、がんについての正しい知識を持ち、命の大切さ、健康的な生活の大切さを理解し、自らの実生活で実践しようとする生徒の育成をテーマとし、保健体育科、特別活動の分野で使用する教材及び指導案を作成し、授業実践を行った。

佐賀県立嬉野高等学校では、保健体育の授業を1, 2年次に各1時間ずつ配置しており、「学校におけるがん教育の在り方について報告」に示された「現代社会と健康」の部分学習するのが1年次であるため、この事業は1年生を対象に実施することとした。なお、保健体育において「現代社会と健康 イ健康の保持増進と疾病の予防（イ）喫煙、飲酒と健康」の学習をした後、下の授業実践を行った。

また、がんの専門医に依頼した講演会は、大変貴重な機会であるため、対象者を1年生だけでなく全校生徒とした。しかしながら、2, 3年生はがんの基礎知識について学習していないため、講師に依頼し、講話の中にもがんの基礎知識を盛り込んでいただいた。

① 教職員対象研修会

○第1回 平成27年8月27日(木)

「がんの基礎知識と佐賀県のがんの状況について」

講師 佐賀県健康福祉本部健康増進課がん対策推進担当係長 吉原 大介 氏

○第2回 平成27年9月25日(金)

講師 がん経験者

② 授業実践・実践公開

○第1回 平成27年10月28日(水)【参観人数：16名】

がんの教育2限目 (1年1, 2, 3組)

保健体育② がん向き合うために

○第2回 平成27年11月5日(木)【参観人数：22名】

がん教育3限目 (1年1, 2, 3組)

特別活動「命の大切さ」～がん経験者に学ぶ～

ゲストティチャー 3名

○第3回 平成27年11月18日(水)【参観人数：46名】

がんの教育4限目 (全校生徒対象)

特別活動「命の大切さ」～がんの基礎知識とがん患者の理解～

講師 佐賀県医療センター好生館 理事長 中川原 章 氏

(3) その他

特記事項なし

2. 事業の達成度について

(1) 推進校によるがん教育の評価

佐賀県立嬉野高等学校「目指す生徒の姿」

①がんに関して正しい理解ができるようになる。

②命の大切さについて考える態度を育成する。

③がんの教育をとおして、学んだことを実践する態度を育成する。

以上の3点に達成できたかどうかの評価については、学習用PCの小テスト、事前・事後アンケート、授業と講話後の感想文を用いて評価した。

事業後の小テストの結果では、80%以上の生徒ががんの予防法や治療法について正しく理解できた。

また、「がんは日本人の死因の第2位である」というがんについての知識に関する質問では、事業前44.8%の生徒が間違った知識を持っていたが、事業後は13.2%に減少した。「早期発見すれば、がんは治

りやすい」は正しいとした生徒が事業前でも90.5%と高い値を示していたが、事業後は100%の生徒が正しいとし、早期発見・早期治療についての理解がしっかりとできた。

命の大切さについて考える態度を育成できたかどうかについては、授業と講話後の感想文を用いて評価した。2限目授業後と3限目のがん経験者の講話後に、「身近な人ががんになったら、その人のためにできること」について自由記入させ、がんやがん経験者に対する関心、生徒の気持ちや考え方の変化を感じ取ることができた。命の大切さに気づき家族を気遣う心情やこれからの生活に活かしていこうとする決意を感想文から読み取ることができた。

がんの教育を通して学んだことを実践する態度の育成については、4限目の全体講話の感想文と事前・事後アンケートを用いて評価した。事業後、「自らの健康管理や健康的な生活行動の選択ができるようになった」という生徒は、全体で76.3%となり、「家族や身近な人が健康であってほしい」と考える生徒は、94.8%から100%となった。これらのことから、がんの教育を通して学んだことを現在及び将来に直面するがんに関する課題としてとらえ、適切な意志決定を行おうとする生徒が増えたことがうかがえた。

(2) 佐賀県の事業取組について

① 推進校における職員研修会を実施し、学校医や県健康福祉本部健康増進課がん対策推進担当者等、専門的立場からの多くの助言を得たことは、教職員ががんへの理解を深め、がんの教育に取り組む意欲の向上につながったことはもちろん、学校医や行政機関との連携をさらに深めることができたという点において有意義であった。

②がんの教育に関する協議会での検討およびアンケート結果

○「協議会として、十分な支援が行えたか」については、「はい」が85.7%であった。

○平成27年度は、推進校に高等学校を指定して教材・学習指導案作成・授業公開等を行うことで、がんに対する正しい知識理解、命の大切さを学び、効果を得た。今後も、小・中・高の発達段階に応じて取り組む必要性がある。

○がんのボランティア団体と教育現場の連携を深めることが重要であり、協議会はそれを推進する場となってほしいという意見が出た。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

これからの課題として、次の2点があげられる。

(1) 平成26年度の推進校(武雄市立川登中学校)及び平成27年度の推進校(佐賀県立嬉野高等学校)の取組成果である中学校および高等学校におけるがんの教育教材および学習指導案を全県下に配布し、活用するよう通知し、がんの教育の普及を図っているが、なお一層県内中・高等学校での取組を推進する必要がある。

したがって、平成28年度は、中学校3校(県立中学校1校、県西部地区中学校1校、県東部地区中学校1校)、高等学校1校を推進校に指定し、過年度に作成された教材及び学習指導案および文部科学省配布のがん教育教材を活用した実践授業の公開を行い、県内に広く参観を呼びかけ、各学校の取組の参考とするよう呼びかける。

(2) 過去2年間の取組において、中・高等学校でのがんの教育教材及び学習指導案の作成を行ったが、小学校におけるがんの教育取組実践事例がないことから、平成28年度は、小学校を推進校に指定し、小学校におけるがんの教育の教材・学習指導案等の作成及び授業公開を行い、各学校の取組の参考とするよう呼びかける。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

(1) 外部講師等の人材確保

外部講師を招へいした授業や研修会実施に向けた人材確保等、学校での取組を支援する体制を充実させる必要がある。

(2) 教職員の研修

教師側のがんの教育に関する理解、がんについての基本的知識や情報収集について、県健康福祉本部健康増進課がん対策推進担当や医療関係者の活用及び連携を深める必要がある。

(3) がんの教育に関する教材及び学習指導案等の活用、実践

推進校作成の教材等及び文部科学省配布のがん教育教材を活用して各学校に応じた実践を行うよう研修会等で説明し、周知する必要がある。

自治体名	神戸市
------	-----

1 事業の具体的内容について

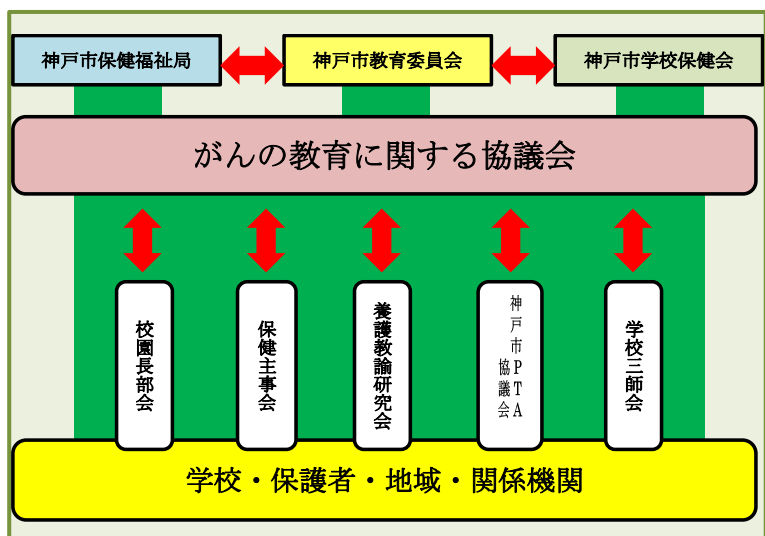
(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

18人

- 内訳：医師(内科)2人(学校保健会会長1)
- 歯科医師1人
- 薬剤師1人(学校薬剤師会会長)
- PTA1人
- 校長4人(小1、中2、高1)
- 養護教諭2人
- 教職員2人
- 神戸市教育委員会3人
- 神戸市保健福祉局2人



2. 検討時期、内容

○第1回協議会：7月16日(木)

- ・がんに関する教育の推進及びがんの教育総合支援事業の説明。
- ・26年度モデル校(塩屋中学校)での授業実践や出前授業の報告。
- ・外部講師を活用した講演会の報告。
- ・文科省からの「学校におけるがん教育の在り方について」をもとに、講演会、モデル校(歌敷山中学校)での研究等、27年度のがん教育の方向性について協議。

○第2回協議会：2月4日(木)

- ・モデル校(歌敷山中学校)での、生徒が「いのち」について主体的に考える「いのちの授業」を中心としたがん教育の実践についての検証。
- ・歌敷山中学校、桜の宮小学校での取組をまとめた実践事例集の発行について。
- ・今後の課題と来年度の取組の方向性についての協議。

② 教育委員会としての取組

- ・あらゆる機会をとらえ、がんに関する教育の必要性、国の動向、今年度の取組等を説明し、教職員の意識づけを図ると共に、課題となる内容の把握に努めた。

・講演会の実施

<第1回> がん教育を推進するにあたり、がんのサバイバーの方を講師に招き体験談をまじえた講演を実施し、実施後に意見交換を行った。

テーマ：「がんに関する教育について」

講師：公益財団法人 日本対がん協会マネジャー 小西 宏氏
 国連 UNHCR 協会広報委員 シンガーソングライター 松田 陽子氏
 【参加人数：50人(教職員、保護者、市民)】

<第2回> 「いのちの授業講演会」(詳細は、「モデル校における取組」参照)

- ・指導の手引き…小学校用の教材として作成し、全市の小学校に配布した。
- ・実践事例集…モデル校や小学校における取組をまとめ、全市の学校園に配布した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

保健福祉局主催の「神戸市がん対策懇話会」が平成27年度も3回開催された。関係部局として出席し、がんに関する教育も含め、神戸市のがん対策を進めるにあたり、がんの専門家、学識経験者や関係機関から、がん対策の在り方等への助言をいただくことができた。平成28年度も引き続き開催され、今後の取組についても助言、協力いただく予定である。

(2) モデル校における取組

27年度モデル校：神戸市立歌敷山中学校

今年度は、中学1年生の授業を中心に取組を進めた。がん教育の目標の一つの「1)がんについての正しい理解」については、中学1年生には内容的に難しいこと、さらに、1年生の生徒の家族にがん患者がいるという事情から、「2)健康と命の大切さを考える」というもう一つのがん教育の目標に重点をおいた授業展開を考えた。「がん」＝「死」を連想させるような授業は極力控え、「いのちの尊さ」や「いのちの強さ」を感じることでできるカリキュラムを展開した。

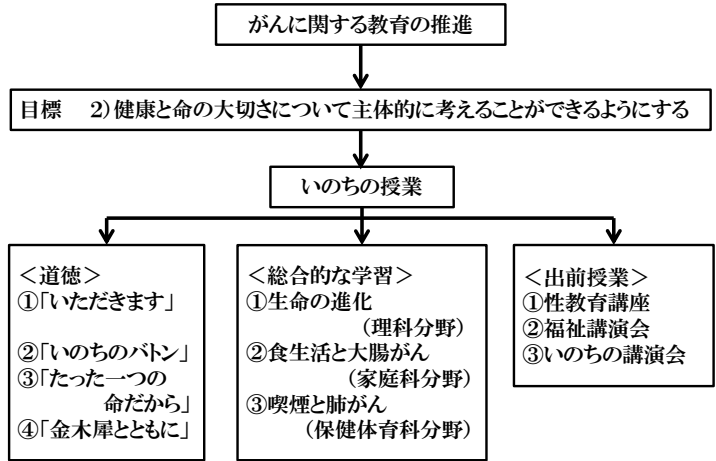


1年生の道徳における重点化項目として、「いのちの尊重」をあげているため、「いのち」に関する道徳の授業に力を入れて取り組んだ。また、総合的な学習の時間を利用して、映像の視聴や出前授業として、性教育や福祉の講習会、そして「いのちの授業講演会」を実施した。教師からだけでなく、様々な方面の方々から、多角的、多面的な「いのち」についての話を聞くことができた。さらに、家庭科や保健体育科の教諭が、「大腸がんと食生活」「肺がんと喫煙」などの教科性を生かした特別授業を行った。



《授業公開》 ※○数字は、表1参照
 平成28年2月4日(木)
 5校時 1年1組 (①総合)、1年4組 (④道徳)、1年5組 (⑤道徳)
 6校時 1年2組 (②総合)、1年3組 (③総合)、1年6組 (⑥道徳)
 15:20～ 研究協議会
 【参加人数：268人(生徒、教職員、保護者、協議会関係者等)】

《外部講師の活用(出前授業)》
 ・性教育講習会 11月6日
 ・福祉講演会 11月10日
 ・いのちの授業講演会 12月11日
 【参加人数：246人(生徒、教職員、保護者、協議会関係者等)】



日時	資料名	内容
6月	「いただきます」VTR	OVTRを通して、「いただきます」の意味、他のいのちをもらって生かされていることの重みを考えました。
11月 から 2月 * 6 回 の 授 業	① 生命の進化	いのちの偶然性を考える 担当 理科教諭 ・40億年をつないできた生命の進化を考える
	② いのちのバトン	いのちの連続性について 担当 数学科教諭 ・今ある命が連続と続いてきた命であることを知る
	③ 食生活の見直し	食育を通して、健康な体づくり 担当 家庭科教諭 ・食事と健康の関係を学び、がんになりにくい体づくりを指導
	④ たった一つの命だから	「たったひとつの命だから」担当 音楽科&美術科教諭 ・「たった一つの命だから」に続く言葉から命の尊さを考える
	⑤ 金木犀と共に	限りあるいのちについて 担当 英語科教諭 ・震災を通して限りあるいのちや「死」について考える
	⑥ 喫煙の害と健康	がんについての授業 担当 保健体育科教諭 ・肺がんのリスクの説明、がんに関する知識の指導
11月6日	性教育講演会	「いのちと性のお話」 ・いのちの誕生と第二次性徴 講師：菅長 由香理氏(ひなた助産院 助産師)
11月10日	福祉講演会	「シッティングバレーとパラリンピック」 講師：大久保 正樹氏(リオデジャネイロパラリンピック代表監督)
12月11日	いのちの授業講演会	「がん」をのりこえ、「命の尊さ」を考える講演会 講師：松田陽子氏(シガタライター- 国連 UNHCR協会広報委員)
2月4日	公開授業	・各テーマについて、担任が自クラスにて公開授業

<表1>

2. 事業の達成度について

〈講演会〉

○第1回の講演会「がんに関する教育について」

右の表のように、講演内容について、参加者のほとんどの方が「よかった」という感想であった。具体的には、教員から、「がんを含めた病気の予防についての教育が必要だと思った。」「日頃向き合っている子供たちと共に学んでいくトピックだと痛感した。」や、保護者からは、「なかなか普段聞けないような話が聞けてよかった。日常の毎日、毎日が大切なんだと改めて強く思った。」など、講演会が有意義なものであったことがうかがえる感想が多数寄せられていた。

<講演会の内容について>

たいへんよかった	61.3%
よかった	35.5%
やや物足りなかった	3.2%
物足りなかった	0%

今回は、体験談をまじえたお話が中心であったが、がんの知識的な部分や、学校現場でいかにがん教育を進めていくかという内容を期待していた教員の中からは、さらにがん教育について学ぶ場の必要性が指摘されていた。

○第2回の講演会「いのちの授業講演会」(出前授業)

がんサバイバーの講師の方が、命の大切さについて、中学生に対して分かりやすく話をし、自分の親にもがん検診受診を呼びかけるようにと、生徒に対して啓蒙した。生徒たちは、真剣に話に聞き入り、「この世に無駄な生命は一つもない、という言葉聞き、もっと頑張って生きていこう、そしてたくさん困っている人を助けようと思った。」「もし病気にかかってしまった時には、この講演会の話思い出して、あきらめなければ、いつか松田さんのように病気を克服できることが分かった。」などの感想をもっていた。

〈モデル校での授業公開〉

授業後の研究協議会では、「健康と命の大切さについて主体的に考える」という目標に重点をおいた取組についての提案があり、以下のように意見交換がなされた。

- ・いのちの偶然性、連続性、有限性等について、教科性と道徳的な内容をミックスしながら、総合的な学習の時間や道徳の時間で授業を行った。
- ・数学や理科の専門性を生かした授業を通してがん教育を行うのは、望んでいた形である。
- ・それぞれの担任が教科の特性を生かした楽しい授業を行い、生徒の心に残るものであった。
- ・喫煙の有害性についての意識をもつことで、将来的にも吸わないことにつながると思う。直接がんを取り扱わなくても、将来につながるがん教育が行えると感じた。
- ・世の中が学校に期待しているため、〇〇教育といわれるものが非常に多い。こうした学校が取り組まなければならないことに対しての一つのヒントとなった。総合的、横断的な学習、道徳を組み合わせることができる。
- ・外部講師を依頼する場合は、丁寧に時間をかけた打ち合わせが必要である。

3. 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- ・がん教育を実施することに対する、教職員の意識向上。
- ・教職員に対する、がん教育への理解を更に深め、指導の手立てを学ぶための講演、研修、資料等の必要性。
- ・講演会、出前授業等が依頼できる外部講師の確保。(人材バンクの構築等)
- ・文科省、対がん協会、保健福祉局、医師会等関係機関との連携強化。
- ・がん患者への配慮等、がん教育を行ううえでの留意点について。
- ・29年度の実施に向けて、各校が取り組みやすいがん教育のモデルの提示。

4. モデル校以外での取組について(課題や今後整理すべき事項など)

<小学校での取組>

- ・28年3月に配布した指導の手引きを活用して、各校で積極的にがん教育に取り組むよう促していく。
- ・神戸市教育研究会保健部の協力を得て授業研究を行い、小学校でのがん教育について検討する。

<中学校、高等学校での取組>

- ・モデル校での公開授業にたくさんの学校に参加を呼びかけ啓蒙していく。
- ・中学校用の指導の手引きを作成し、年度末には各中学校、高等学校へ配布する。

※児童生徒の発達段階を考慮し、各校種で指導する内容、取り扱う学年等の整理。

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

9名

内訳：医療関係者2人（医師【消火器外科】，医師【腫瘍内科】）

区役所1人（健康課課長）

保健福祉局1人（保健予防課長）

学校関係者3人（小学校長，中学校長，高等学校長）

教育委員会2人（健康教育課長，学校指導課長）

2. 検討時期、内容

平成27年7月6日 第1回協議会（H27事業計画の説明，外部講師依頼先団体の選定と調整等）

平成27年12月11日 第2回協議会（モデル校進捗状況の報告，教材の完成に向けての内容確認）

平成28年2月15日 第3回協議会（教材，指導資料に対する助言及び見直し）

② 教育委員会としての取組

- ・モデル校を小学校7校，中学校7校，高等学校1校指定し，公開授業を行った。
モデル校以外の学校や，保護者・地域に呼びかけ啓発を図った。
- ・平成26年度に作成した教材の改訂版や，指導資料を作成した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○外部講師の依頼や，教材の作成等でNPO キャンサーサポートと連携を深めた。

○教育委員会の担当者がNPO キャンサーサポートの学習会にも積極的に参加することで，事業を推進するにあたっての課題と情報の共有をすることができている。

(2) モデル校における取組

○総時間数（2時間程度）＜学級活動，保健等＞

・がんの正しい知識について（1時間程度）

学校の教諭等が，福岡市教育委員会が作成した教材を使って，指導の手引を参考に授業を行った。

・いのちを大切にすることを育む（1時間程度）

講師として，医療関係者やがんの経験者を招聘し講話を行った。

①医療関係者の話（15分）

②がん患者体験談（20分）

③感想の交流（15分）



2. 事業の達成度について

授業実施前と後の児童生徒のアンケート結果から、事業の成果は大きいと考える。

- ・「がんの教育総合支援事業（文部科学省）評価アンケート」から
実施校の児童生徒が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合

質問内容	授業実施前	授業実施後	伸び
がんの学習は健康な生活を送るために重要だ。	91.8%	99.4%	7.6 アップ
がんの検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	78.1%	97.1%	19 アップ
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	73.9%	96.0%	22.1 アップ
日頃からバランスの良い食事や、適度に運動を行うなど、健康な体づくりに取り組もうと思う。	86.9%	96.4%	9.5 アップ

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- 27年度に作成した教材活用の研究
- 教材や指導資料に使う最新データの収集
- 小児がんや保護者にがん患者がいる時の配慮
- 外部講師招聘ができない時のいのちの大切さに関する内容の精査及び効果的な学習の在り方検討

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- 全校で実施する場合の講師、予算の確保

【アンケート集計結果】

(平成 27 年度)

がんの教育総合支援事業 評価アンケート

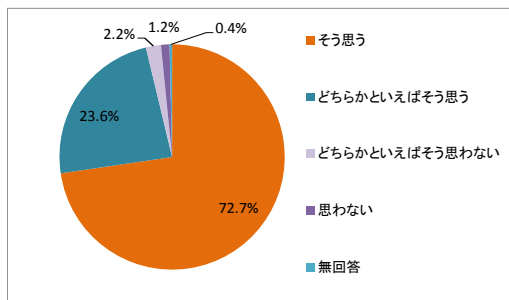
【平成27年度事業 文部科学省集計】

(1) 児童生徒に対するアンケート

1) がんについて当てはまるもの

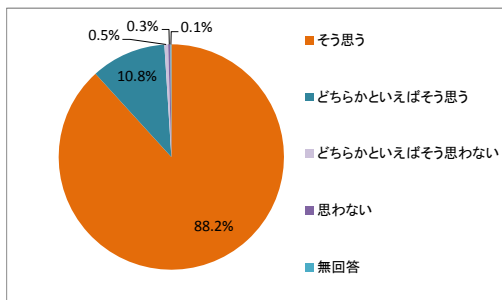
a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ (事業実施前)

	(単位:人)
そう思う	8649
どちらかといえばそう思う	2804
どちらかといえばそう思わない	256
思わない	143
無回答	45



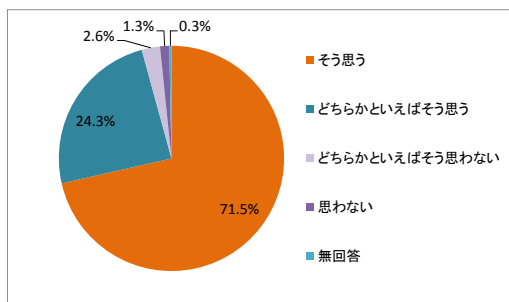
a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ (事業実施後)

	(単位:人)
そう思う	10204
どちらかといえばそう思う	1244
どちらかといえばそう思わない	62
思わない	37
無回答	16



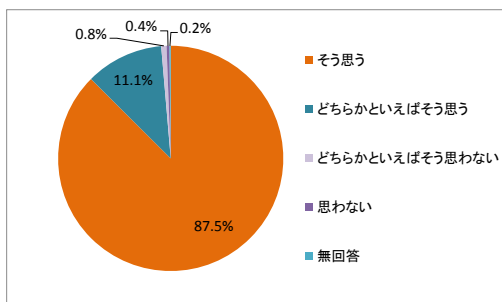
b がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ (事業実施前)

	(単位:人)
そう思う	8503
どちらかといえばそう思う	2891
どちらかといえばそう思わない	313
思わない	155
無回答	38



b がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ (事業実施後)

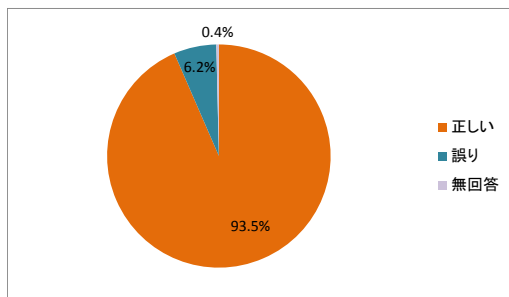
	(単位:人)
そう思う	10113
どちらかといえばそう思う	1289
どちらかといえばそう思わない	93
思わない	43
無回答	23



2) がんについて当てはまるもの

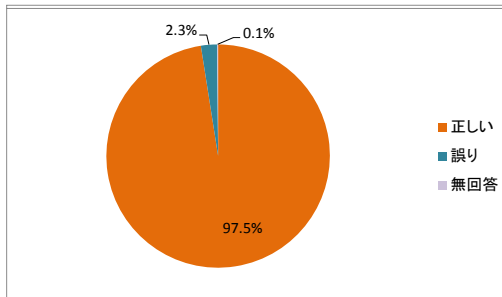
a がんは誰もがかかる可能性のある病気である (事業実施前)

	(単位:人)
正しい	11125
誤り	733
無回答	42



a がんは誰もがかかる可能性のある病気である (事業実施後)

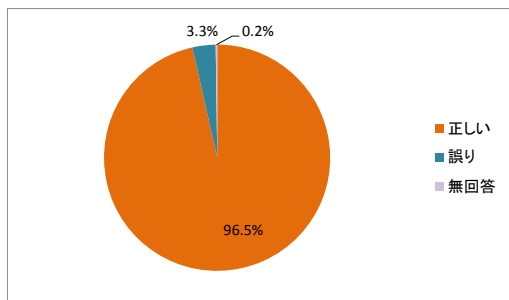
	(単位:人)
正しい	11276
誤り	271
無回答	15



b がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある（事業実施前）

(単位：人)

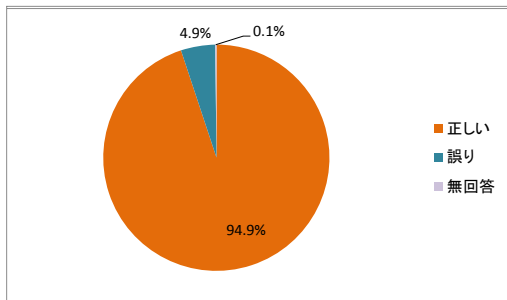
正しい	11462
誤り	394
無回答	22



b がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある（事業実施後）

(単位：人)

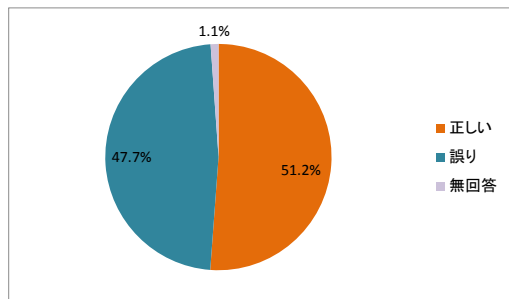
正しい	10948
誤り	566
無回答	17



c がんは日本人の死因の第2位である（事業実施前）

(単位：人)

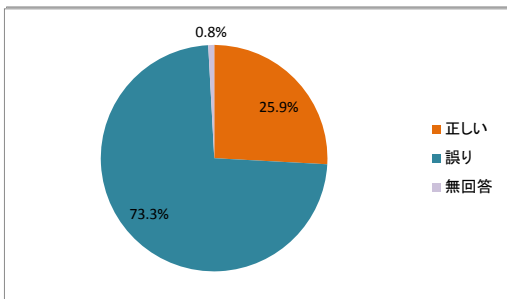
正しい	6088
誤り	5678
無回答	133



c がんは日本人の死因の第2位である（事業実施後）

(単位：人)

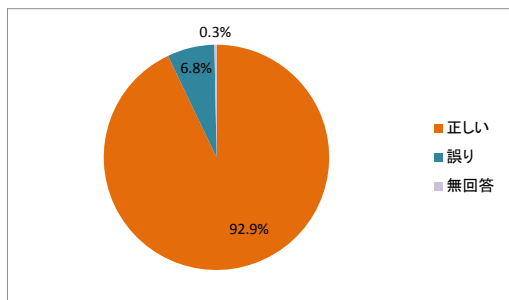
正しい	2991
誤り	8481
無回答	98



d たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある（事業実施前）

(単位：人)

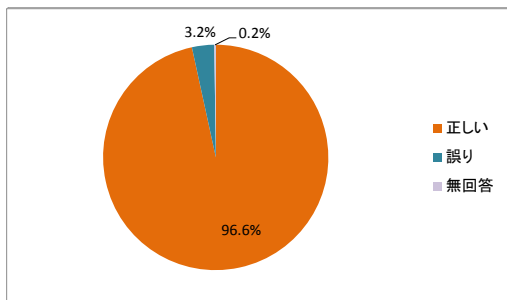
正しい	11056
誤り	808
無回答	37



d たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある（事業実施後）

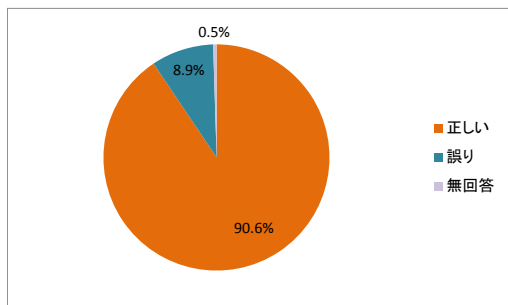
(単位：人)

正しい	11169
誤り	371
無回答	23



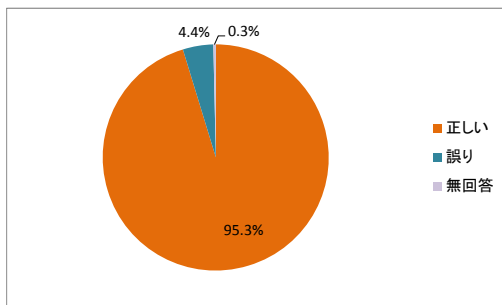
e 早期発見すれば、がんは治りやすい (事業実施前)

(単位：人)	
正しい	10783
誤り	1061
無回答	59



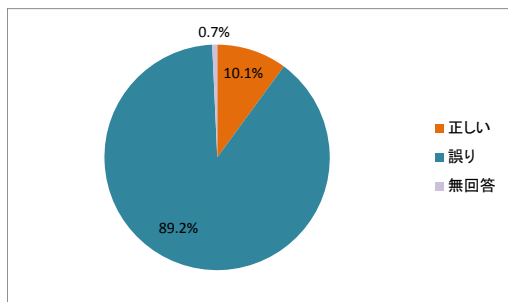
e 早期発見すれば、がんは治りやすい (事業実施後)

(単位：人)	
正しい	11019
誤り	506
無回答	37



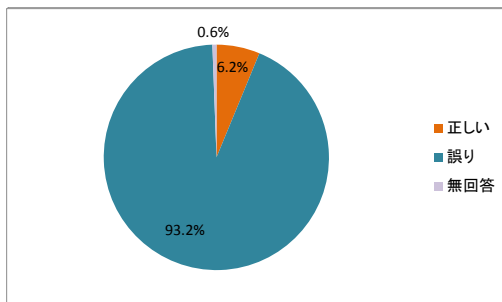
f 体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い (事業実施前)

(単位：人)	
正しい	1201
誤り	10618
無回答	83



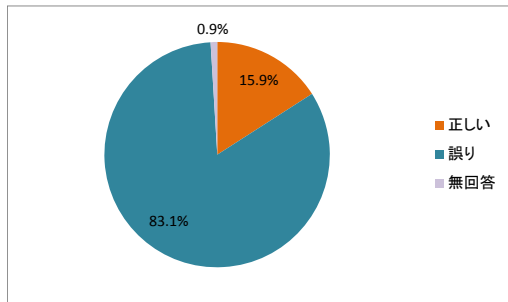
f 体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い (事業実施後)

(単位：人)	
正しい	720
誤り	10772
無回答	64



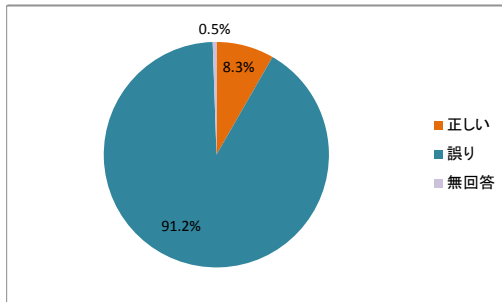
g がんの治療法には手術治療しかない (事業実施前)

(単位：人)	
正しい	1826
誤り	9523
無回答	107



g がんの治療法には手術治療しかない (事業実施後)

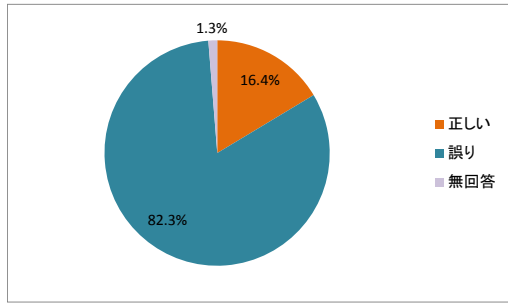
(単位：人)	
正しい	923
誤り	10139
無回答	56



h がんの痛みは我慢するしかない（事業実施前）

(単位：人)

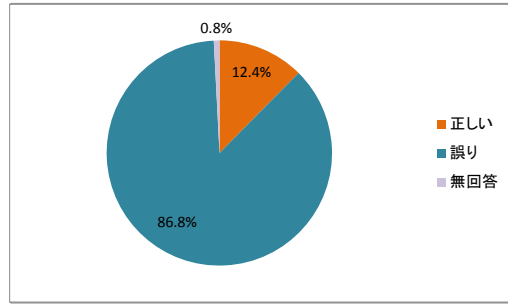
正しい	1868
誤り	9378
無回答	143



h がんの痛みは我慢するしかない（事業実施後）

(単位：人)

正しい	1373
誤り	9573
無回答	89

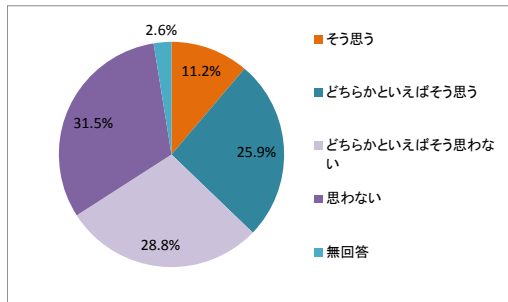


3) がんについて当てはまるもの

a 自分はがんにならないと思う（事業実施前）

(単位：人)

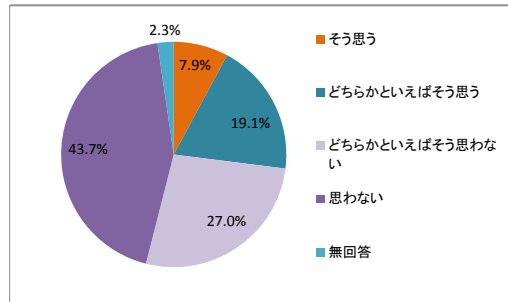
そう思う	1338
どちらかといえばそう思う	3092
どちらかといえばそう思わない	3427
思わない	3754
無回答	305



a 自分はがんにならないと思う（事業実施後）

(単位：人)

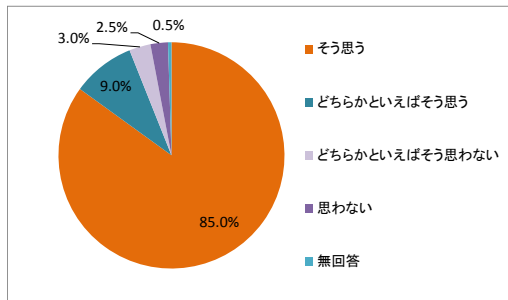
そう思う	913
どちらかといえばそう思う	2217
どちらかといえばそう思わない	3126
思わない	5067
無回答	267



b 将来、たばこは吸わないでいようと思う（事業実施前）

(単位：人)

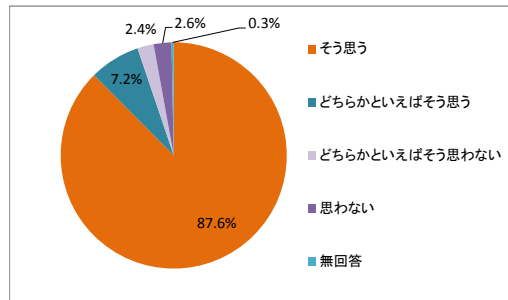
そう思う	10116
どちらかといえばそう思う	1069
どちらかといえばそう思わない	361
思わない	298
無回答	58



b 将来、たばこは吸わないでいようと思う（事業実施後）

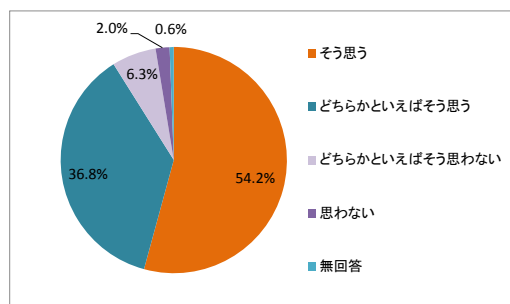
(単位：人)

そう思う	10125
どちらかといえばそう思う	838
どちらかといえばそう思わない	272
思わない	295
無回答	34



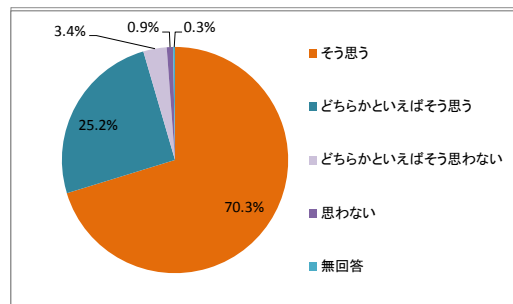
c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施前）

	(単位：人)
そう思う	6460
どちらかといえばそう思う	4387
どちらかといえばそう思わない	753
思わない	237
無回答	72



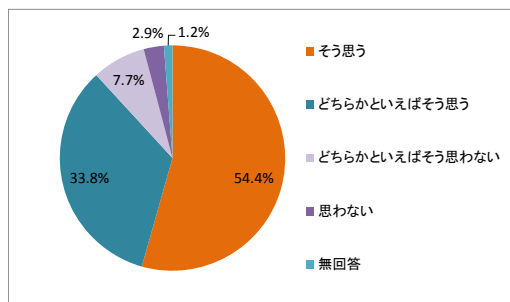
c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施後）

	(単位：人)
そう思う	8125
どちらかといえばそう思う	2917
どちらかといえばそう思わない	388
思わない	105
無回答	29



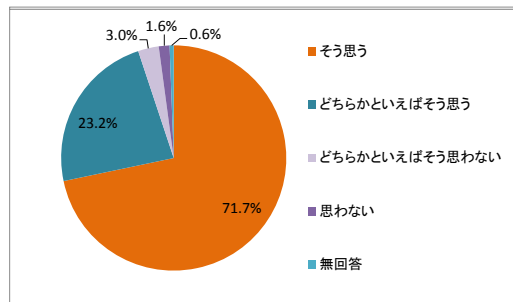
d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（事業実施前）

	(単位：人)
そう思う	6459
どちらかといえばそう思う	4015
どちらかといえばそう思わない	915
思わない	346
無回答	143



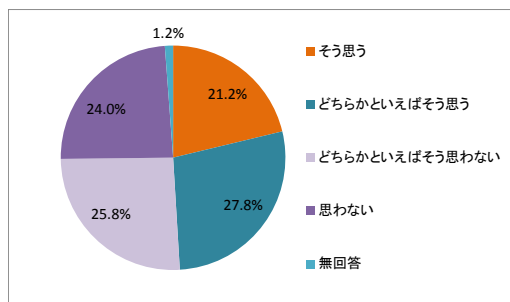
d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（事業実施後）

	(単位：人)
そう思う	8272
どちらかといえばそう思う	2674
どちらかといえばそう思わない	344
思わない	180
無回答	65



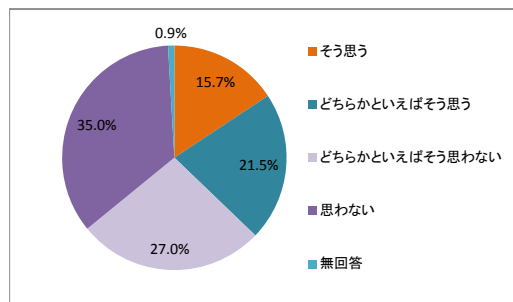
e がんの治療方法はいつかあるが、医師が決めるものである（事業実施前）

	(単位：人)
そう思う	2436
どちらかといえばそう思う	3190
どちらかといえばそう思わない	2958
思わない	2755
無回答	134



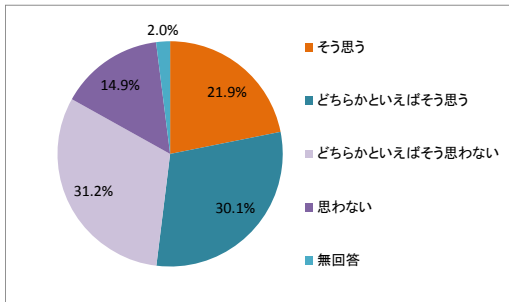
e がんの治療方法はいつかあるが、医師が決めるものである（事業実施後）

	(単位：人)
そう思う	1750
どちらかといえばそう思う	2392
どちらかといえばそう思わない	3003
思わない	3894
無回答	102



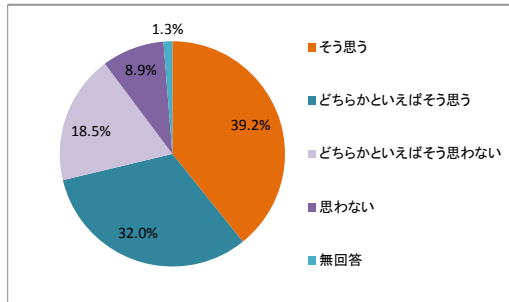
f がんになっても生活の質を高めることができる（事業実施前）

(単位：人)	
そう思う	2507
どちらかといえばそう思う	3449
どちらかといえばそう思わない	3575
思わない	1713
無回答	226



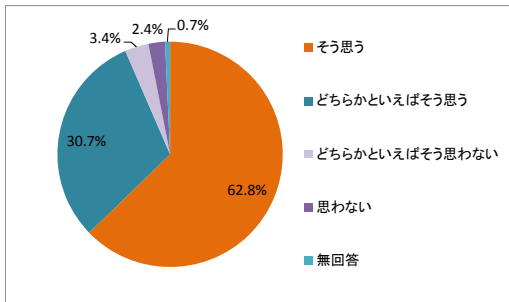
f がんになっても生活の質を高めることができる（事業実施後）

(単位：人)	
そう思う	4363
どちらかといえばそう思う	3562
どちらかといえばそう思わない	2060
思わない	995
無回答	143



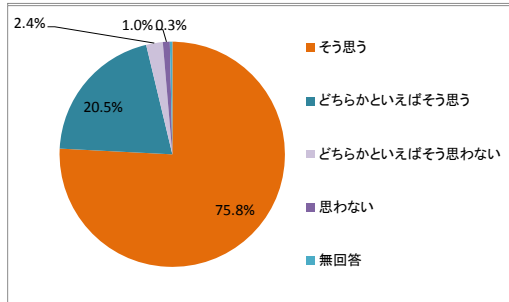
g がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい（事業実施前）

(単位：人)	
そう思う	7370
どちらかといえばそう思う	3609
どちらかといえばそう思わない	401
思わない	278
無回答	87



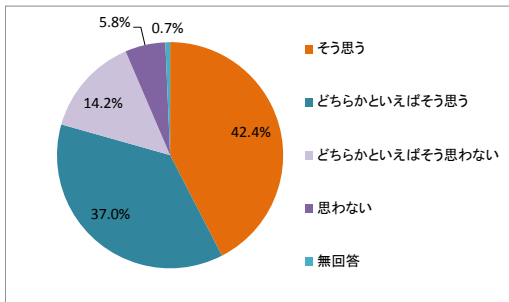
g がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい（事業実施後）

(単位：人)	
そう思う	8647
どちらかといえばそう思う	2335
どちらかといえばそう思わない	271
思わない	116
無回答	39



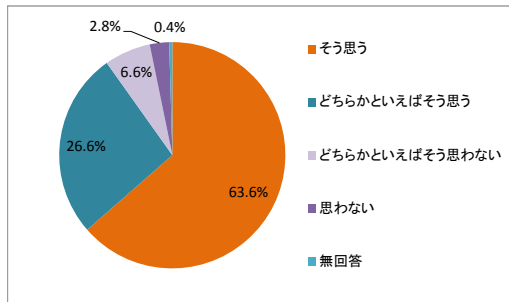
h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（事業実施前）

(単位：人)	
そう思う	5049
どちらかといえばそう思う	4401
どちらかといえばそう思わない	1686
思わない	687
無回答	80



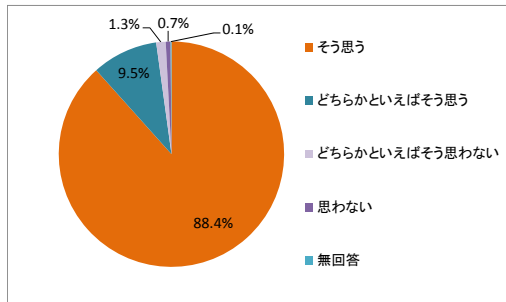
h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（事業実施後）

(単位：人)	
そう思う	7351
どちらかといえばそう思う	3076
どちらかといえばそう思わない	765
思わない	321
無回答	50



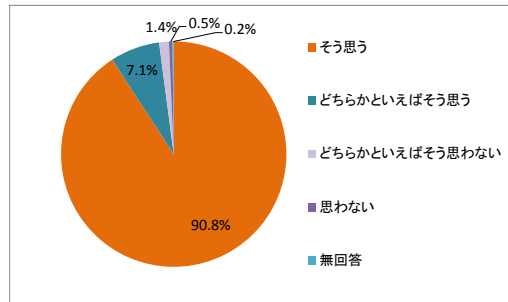
i 家族や身近な人が健康であってほしいと思う（事業実施前）

(単位：人)	
そう思う	10494
どちらかといえばそう思う	1123
どちらかといえばそう思わない	160
思わない	82
無回答	16



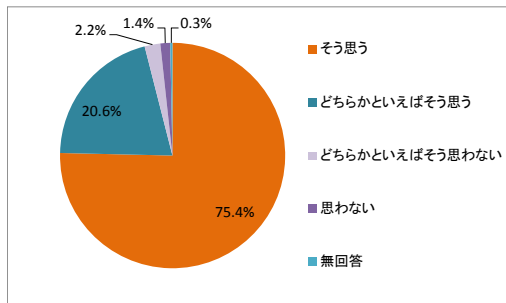
i 家族や身近な人が健康であってほしいと思う（事業実施後）

(単位：人)	
そう思う	10471
どちらかといえばそう思う	818
どちらかといえばそう思わない	165
思わない	56
無回答	20



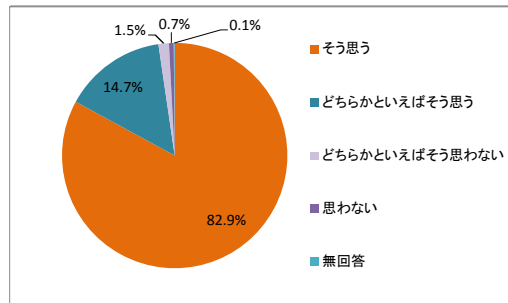
j 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施前）

(単位：人)	
そう思う	8853
どちらかといえばそう思う	2422
どちらかといえばそう思わない	264
思わない	166
無回答	40



j 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う（事業実施後）

(単位：人)	
そう思う	9446
どちらかといえばそう思う	1675
どちらかといえばそう思わない	174
思わない	77
無回答	17



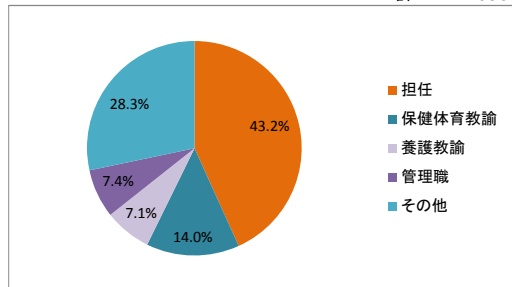
がんの教育総合支援事業 評価アンケート

【平成27年度事業 文部科学省集計】

(2) 学校（教職員）に対するアンケート

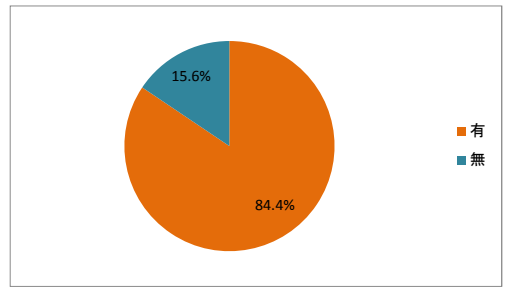
1) あなたの職種をお答えください。

職種	(単位：人)
担任	275
保健体育教諭	89
養護教諭	45
管理職	47
その他	180
計	636



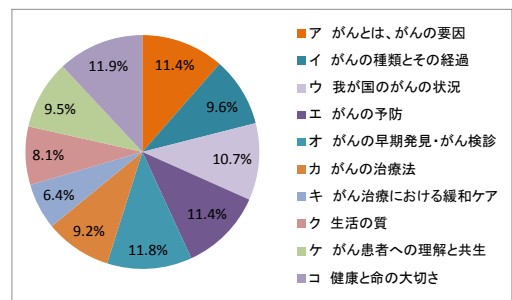
2) 外部講師の活用の有無について

活用状況	(単位：人)
有	368
無	68



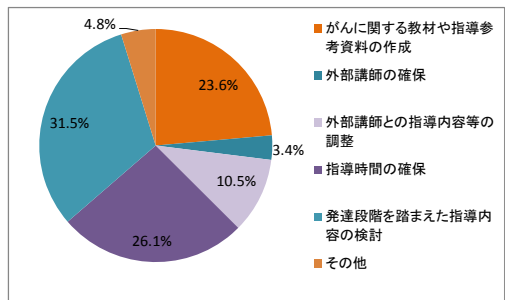
3) 授業で扱った内容について。

内容	(単位：人)
ア がんとは、がんの要因	305
イ がんの種類とその経過	255
ウ 我が国のがんの状況	284
エ がんの予防	305
オ がんの早期発見・がん検診	314
カ がんの治療法	245
キ がん治療における緩和ケア	170
ク 生活の質	215
ケ がん患者への理解と共生	254
コ 健康と命の大切さ	318



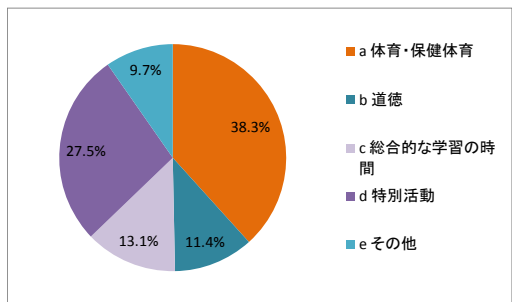
4) 課題のあった項目について（複数回答可）

課題項目	(単位：人)
がんに関する教材や指導参考資料の作成	83
外部講師の確保	12
外部講師との指導内容等の調整	37
指導時間の確保	92
発達段階を踏まえた指導内容の検討	111
その他	17



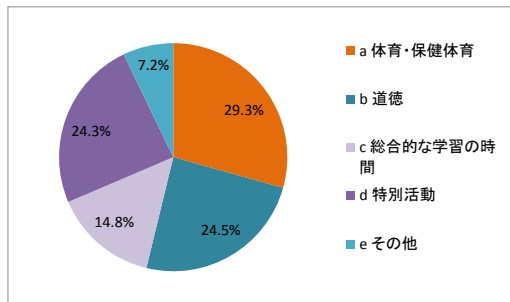
5) 利用した時間についてお答えください。

時間利用	(単位：人)
a 体育・保健体育	178
b 道徳	53
c 総合的な学習の時間	61
d 特別活動	128
e その他	45



(いの中の大切さについての教育を行った場合)

大切さ	(単位：人)
a 体育・保健体育	139
b 道徳	116
c 総合的な学習の時間	70
d 特別活動	115
e その他	34



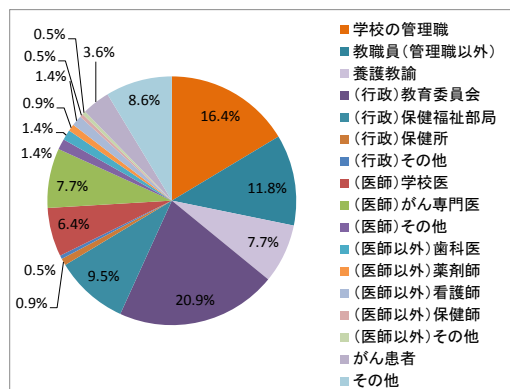
がんの教育総合支援事業 評価アンケート

【平成27年度事業 文部科学省集計】

(3) 協議会に対するアンケート

1) あなたの職種をお答えください。

	(単位:人)
学校の管理職	36
教職員(管理職以外)	26
養護教諭	17
(行政)教育委員会	46
(行政)保健福祉部局	21
(行政)保健所	2
(行政)その他	1
(医師)学校医	14
(医師)がん専門医	17
(医師)その他	3
(医師以外)歯科医	3
(医師以外)薬剤師	2
(医師以外)看護師	3
(医師以外)保健師	1
(医師以外)その他	1
がん患者	8
その他	19
計	220



2) 協議会として十分な支援を行えたか

	(単位:人)
はい	139
いいえ	33
無回答	27

